

体育市民連帯 金曜コラム 2019年12月15日 スポーツ革新と初心

ホン・ドクギ（慶尚大学校）

2019年の一年、大韓民国スポーツ分野に多くのことがあった。1月初めから趙ジェボム前国家代表ショートトラックコーチの性暴力事件をはじめとして、最近の彦南（オンナム）高校サッカー部ジョン・ジョンソン前監督の横領をはじめとする保護者への性暴行事件などは国民に衝撃を与えた。そして衝撃的な出来事はいつのまにかマスコミと国民から忘れられて、再び一年が暮れようとしている。事実、スポーツ分野の反人権的で非教育的な出来事は昨日今日の事ではない。しかし、問題の解決を求める声が少し高くなつては再び静かになることの繰り返しは、残念ながらスポーツ界で見慣れた風景になってしまった。

そういう側面から今年、文化体育観光部傘下のスポーツ革新委員会の活動は、おなじみの風景にある程度亀裂を起こした。端的に、政府がスポーツ界にここまで関心を持ってスポーツの分野で古いシステムを変えようと努力したことはなかった。ある人は、今年はスポーツ界の「ゴールデンタイム」だという。つまり、スポーツ革新委員会の勧告によっても誤った構造を正すことができなければ、おそらく、ずっとスポーツ界に内在した構造的な問題を変えることは難しいという意味だ。今スポーツ革新委員会の活動時間も一ヶ月余りしか残っていない。すでに7回にわたって勧告をし、各勧告の履行状況のチェックも終わりに向かっている。結果が見える勧告もあるが、まだ行く道が遠い勧告も山積している。現場の反応は既存スポーツ界の慣性と相まっていろいろ湧き出て来る。

「体育はもともとそうだ」、「ちょっと叩いたぐらいで何が悪いの?」、「現場の指導者をみな殺そうというのか」、「体育人が犯罪者でもないのに、あまりじゃない?」、「うちの子を助けてください」、「子供がしたい運動をさせてあげただけなのに、とても後悔しています・・・」、「今回をきっかけにスポーツ界が必ず変わることを願います」等。

この辺で私たちは再び「初心」に戻って「質問」してみる必要がある。

「果たして私たちにとってスポーツは、これまでどのような意味だったのか?」、「将来の世代にどのような社会を譲り渡すのか?」、そして「みんなのスポーツは果たしていつ頃、どのような姿で、私たちに近づいて来るだろうか?」

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 407号 代表：金商汎

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 효령로 230 승정빌딩 407호 대표：김상범

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ： <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com